

令和7年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度も、5領域それぞれの重点項目に対して計10の達成目標を掲げて取り組んだ。重点項目の内容は、令和6年度末の反省と学校運営協議会の委員の意見を参考にして、より現実的・具体的となるよう設定し取り組んだ。

「1週間あたりの家庭学習時間」については、全校平均で566分となり、昨年度の605分をやや下回る結果となった。特に1年生については、部活動との両立や学習習慣の確立に時間を要したことが、顕著に表れる結果となった。3年生は平均700分と目標を大きく超えた。これは、共通テストに向けた8限補習や個別添削指導を早期から実施したことが、進路意識の向上と学習習慣の維持につながったものと考えられる。

「進路希望の明確化および満足度」については、2年生(87.5%)と3年生(95.5%)が目標(80%以上)を達成した。進路支援に対する生徒の満足度も95.5%と極めて高く、全教員による選抜方式に応じたきめ細やかな個別指導が上手く機能し、生徒の主体的な進路選択を強力に支援できた。

「学校行事、生徒会行事への満足度」については、全ての行事で目標(75%以上)を達成した。特に「読書習慣の確立」については、年間目標達成者が74%に達し、昨年度の42%から大幅に改善した。「出張図書」の設置や選書アンケートに基づいた環境整備が奏功し、活字に触れる機会を創出できたことは大きな成果である。

「教育活動への理解を深める情報発信の強化」では、年間更新回数60回以上の目標を達成した。行事の様子をタイムリーに投稿したことは保護者からも一定の評価を得たが、今後はより満足度を高めるため、写真の活用や構成の工夫など内容のさらなる充実が必要であると考えている。

全体を通してみると、多くの項目で重点目標を達成していることを勘案すれば、学校経営全体が健全で本校生徒に即しており、生徒がおおむね前向きな気持ちをもって学校生活や寮生活を過ごしていると考えている。

7 次年度へ向けての課題と方策

「安全な学校生活と心身の健康」については、スマホルールの遵守状況は概ね良好であるが、睡眠の質に課題を抱える生徒が一部見受けられる。学校運営協議会委員からは「睡眠の質は健康維持だけでなく、悩みの解決への第一歩」との助言をいただいた。次年度は保健指導や寮での啓発を強化し、生活リズムの改善から相談しやすい体制の充実へと繋げたい。

学習面では、卒業学年以外の学習習慣の早期確立が急務である。小規模校の強みを活かし、一斉指導だけでなくタブレット端末を用いた個別学習指導をより充実させ、学習のつまずきに早期に対応する。特に新入生に対しては、入学直後から主体的に学習に向かう動機づけをより積極的に行っていきたい。

学校運営協議会委員からは、読書の改善について評価をいただくとともに、代替として「市図書館の活用」などの提案もいただいた。読書を通じて培われる「読む力、書く力、表現する力」は、本校が推進する「五箇山探究」や「郷土芸能」の発信力を支える基盤である。次年度も読書環境を整え、多様な形で活字に触れる機会を継続して提供していきたい。

本校は今年度、初の全国募集生徒を迎え、全国から集まる多様な生徒と地元生徒が切磋琢磨できる環境が整った。小規模校ゆえに変化に対応しやすい利点を活かし、次年度も生徒の発案や新しいアイデアを積極的に学校経営に取り入れ、地域内外から選ばれる魅力ある学校となるよう、さらなる改革を推進していきたい。